

04

フジコーポレーション株式会社

企業概要

所在地:燕市小池285 電話:0256-64-5511

事業内容:除雪機や農業機械の開発・製造・販売

従業員数:125名うち雇用障害者数4名

URL:https://www.e-fujii.co.jp/



雇用の多様性 (ダイバーシティ)がモットー トップの表明で、会社全体で 取り組む

雇用の経緯

以前から身体障害を持つ従業員はいたのですが、障害者雇用として取組を始めたのは、経済産業省平成25年度ダイバーシティ経営企業100選を受賞した際、障害者雇用の取組が進んでいないことを実感し、新潟労働局から精神障害者等雇用促進モデル事業を受託したことがきっかけでした(平成26年度～平成27年度)。当社は、高齢者、女性、外国人といった多様な人材を雇用し、その能力を最大限に発揮してもらうことを経営方針としています。モデル事業を開始するのに際し、トップがダイバーシティ経営の一環として、障害者雇用に取り組むと幹部社員に対して表明しました。受託事業に取り組んだ結果、平成26年度に2名、平成27年度に1名の精神障害者を雇用しました。さらに令和2年1月、三条テクノスクールの紹介により知的障害者1名を雇用しました。

point

1

精神障害者等雇用促進モデル事業の実施

モデル事業では、まず社内理解の促進に取り組みました。具体的には、新潟障害者職業センター(P.36参照)の職員を講師に招き幹部社員に対する研修会を実施したほか、県内外の先進的企業の見学を行いました。研修では障害特性や雇用上の留意点などを知ることができ、企業見学では研修だけでは分からない現場の状況を見ることができました。

また、環境整備として、休憩やカウンセリングのためのスペースを設置したほか、社内支援体制充実のため、7名の社員に「障害者職業生活相談員資格認定講習」を受講させ、障害者職業生活相談員に選任しました。

平成26年度に雇用を開始した2名は、最初同じ業務(部品の袋詰め)を担当してもらっていましたが、職域を拡大するにつれ、それぞれの適性を考慮し、現在は違う業務に従事してもらっています。以前は社外に発注していた部品組立業務や繁忙時に派遣社員で対応していた出荷準備業務についても担当してもらえるようになりました。それがコストダウンに繋がり利益創出等のメリットが生じています。

DATA BOX

現在の障害者雇用の状況

身体障害者2名 知的障害者1名 精神障害者1名

主な担当業務

身体障害者:原価管理、工場スタッフ(溶接作業等)

知的障害者:構内緑化作業等

精神障害者:部品の袋詰め、ピッキング、部品出荷準備等

採用までのプロセス(一例)

- ① ハローワークによる職場見学会
- ② 面接
- ③ 職場実習
- ④ トライアル雇用
- ⑤ 正式採用

世界各地で使用されている
サンタクロース公認除雪機



機密保持のため不要書類をシュレッダー機にかける作業



工場で製品組立に必要な部品をピッキングする作業



パーティションで区切られた休憩スペース

point

2

支援が必要なときは専門支援機関と連携して対応 指導担当者へのケアも

精神障害者は体調に波がでることがあり、元気に仕事をしているように見えても、急に体調不良により休んでしまうことがあります。そのようなときは、専門の支援機関の障害者就業・生活支援センター（P.35参照）に相談して、連携した対応をとっています。一方、指導担当者のほうも直前に伝えた指示や声かけ等が体調不良の原因ではないかと自責の念を持つケースがありますので、指導担当者へのケアも必要になります。当社では、月2回、新潟県臨床心理士会からカウンセラーを派遣（有料）してもらい、障害者だけでなく指導担当者との個別相談も行っていましたが、障害者が安定していることや作業指導者が精神障害者との関わり方にある程度身に付けたことから令和2年3月に終了しました。このカウンセリングは精神障害者の職場定着に大きく寄与したと思っています。

百聞は一見にしかず 実際に見ることが大事

総務部 清水さん

先進企業を見学した際、説明を受けた取組自体もたいへん参考になりましたが、実際に職場で働く障害者を見ることによって、障害者雇用をこれまでよりもずっと身近に感じるようになりました。そのことが当社の取組を実施するのに役に立ったと思います。実際に現場を見ることも大事と感じました。



こんな課題どうしていますか？

任せる仕事がない。あっても新たに雇用するまでの量にならない。

A

他企業の取組を見学して参考にしました。また、日頃から社外に発注しているものが障害者で担当できないか検討しています。

支援機関

～障害者雇用は、トップの決断がキー～

障害者就業・生活支援センター ハート 就業支援ワーカー 谷地田さん
(P.35参照)

フジコーポレーション株式会社様とは、同社が精神障害者等のモデル事業を受託される前年から関わらせて頂いておりましたが、当時は身体障害者以外の雇用には抵抗感がある様に感じられました。

モデル事業を受託すると社長が決断されてからは、積極的に取組を進められ、障害者を雇用した後も、新潟障害者職業センターからジョブコーチの指導を受入れる等、様々な取組を実施されていますが、これらはトップの決断によるところが大きかったと思います。

健常の従業員と障害者が共に働くことで、職場の雰囲気も以前とは違ってきている様に感じます。